

「組み込みLinuxエンジニア認定プログラム」について

JASAはグローバルコミュニティのLinux Foundation (以下LF)と共同で、国内の組み込みシステム分野でのOSSスキル向上を目指して「組み込みLinuxエンジニア認定プログラム」を2026年内にスタートします。当プログラムでは、JASAが運営するETECの指定グレード認定後、LFで運営するLinux向けの指定トレーニングコースを受講、CODE試験に合格することで認定エンジニアのバッジ取得ができるプログラムです。

生成AIの普及拡大により、従来の組み込みシステム開発で重要とされる制御処理に加え、クラウド連携、データ中心のセキュリティ、そしてエッジAIによる推論など、より高度な情報処理が求められ、その多くはOSSを多用し、ハイブリッド動作させる開発スタイルにシフトしています。そういったエンジニアリング環境の変化に対応するためには、組み込みエンジニアに求められるスキルセットとしてLinuxやOSSの利活用ノウハウを身に付けることは最重要課題で、我が国の組み込みソフトウェア産業としても競争力維持のために必須です。

認定プログラムの概要

ETEC (組み込み技術者試験制度) : JASAが策定した組み込み技術エンジニアリングにおける高度な知識とスキルを有していることを証明する資格で、組み込みシステム業界で活躍するための基盤となるスキルを証明します。

CODE (Certified Open Source Developer for Enterprise) : 企業環境において、会社のポリシーや上司の指示に従い、企業環境におけるソフトウェア開発業務にOSSの利用や活用を適切に組み込む方法や技術を理解していることを証明します。

この2つのトレーニングと試験制度を組み合わせこれからの組み込みエンジニアのスキルセットをモダン化、可視化する制度として進化させてまいります。



JASA × アイティメディア 戦略的パートナーシップを締結

一般社団法人組み込みシステム技術協会 (JASA)とアイティメディア株式会社は、JASA主催の国内最大級の組み込み技術総合展示会「EdgeTech+ 2026」において、企画・展示会価値向上を共同で推進する戦略的パートナーシップを締結しました。

本展示会は、直近の2025年開催では3日間でリアル来場者が3万2429人を数え、329社・団体が出展するなど、業界を代表するプラットフォームとしての地位を確立しています。

「モノからコトへ」、いま価値は逆流する エッジ x AI の潮流に対応

これまで価値の重心はハードからソフトへ、そしてAI活用へと移ってきました。しかし近年、AI需要の急拡大と電力インフラの逼迫を引き金に、価値は物理層と半導体へ回帰しつつあり、EdgeTech+2026の出展・基調講演にも半導体関連が「戻ってきた」のはその表れです。組み込み業界では、AIが物理世界で自律的に稼働する「フィジカルAI」、ハードウェアの制約をソフト

EdgeTech+
2026

ウェアで打破する「SDx」、AIが開発プロセス自体を変革する「AI駆動型開発」へのパラダイムシフトが急速に進んでいます。

両社の強みで新たな展示会体験を！

JASAは主催・事業統括として方針策定や出展社・来場者対応、40年の業界ネットワークを提供します。アイティメディアは月間3.5億ページビュー・6000万ユニークブラウザの読者基盤と「MONOist」等、組み込み分野のコンテンツ制作力を活かし、企画強化や新規来場者層の開拓を支援します。ソフトから物理・半導体へと揺れ戻る産業の転換点を捉え、オンラインとリアルを融合した新たな展示会体験の創出を目指します。